

## 『地震を想定した避難訓練について』

- ・ 『大阪 880 万人訓練』は、「南海沖を震源とする大規模地震が発生」したことを想定し、津波も含めてどのように対応するのかを目的に実施しています。
- ・ 『南海トラフ巨大地震』については、30年以内に発生する確率(2020年1月24日時点)は70～80%と言われており、当然確率は上がっていると考えられ、皆さんが生きている間に発生する可能性は非常に高いということになります。
- ・ 「仮に、震度7程度の大規模地震が北区を襲ったらどれだけの被害が発生するのか」については、皆さんの家庭に区役所から配付されているピンク色の『大阪北区ジシン本』に書かれていますので、時間のある時にぜひ見ておいてください。
- ・ 大地震の場合は、家の中の家具が倒れてきたり、テーブルや台の上に置いてあるテレビなどの電化製品などが飛んできたりするようなこともあります。
- ・ いつも地震の訓練時にはお伝えしていますが、皆さんのお家の寝室に倒れてくるような大きな家具や飛んできそうな電化製品などは置いていませんか。置いている場合は、金具などで固定されているでしょうか。
- ・ 29年前の『阪神淡路大震災』は早朝(5:46)に発生したため、寝ている状態で家具の下敷きとなり亡くなった方が多くありました。この訓練を機会に、もう一度、お家の中を見直し、家族で話し合ってみてはどうでしょうか。
- ・ 皆さんはずっと北区で生活をしているわけではありません。仮に、家族旅行で四国地方や和歌山県などの太平洋側に出かけていた場合などは、場所によっては 10m以上の津波が想定されています。
- ・ 10mを超えるような津波に襲われると、学校の校舎の場合、2階・3階あたりの高さでは、完全に流されてしまうことになります。
- ・ 今、住んでる地を離れた時も、大地震による津波発生の可能性のある場合は「できる限り高い所に逃げる」が基本になることや、あわせてどこに避難するべきかを前もって確認しておくことがとても大切なことです。

- ・ 地震以外の自然災害について1点お知らせをしておきます。9月になると、日本では台風や大雨による被害が例年多くなります。
- ・ 日本には、『二百十日 (にひゃくとおか)』という言葉があります。立春(2月4日頃)から数えて210日目にあたる9月1日頃は、農作物に甚大な被害を与える台風の被害が多い目安となっています。また、100年前に『関東大震災』が発生した日であることから9月1日は『防災の日』であることはよく知られています。
- ・ 今日、『関東大震災100年』ということで、様々なイベントや取組があり、朝のニュース番組などでも取り上げられていました。皆さんが、防災意識を高めるひとつのきっかけになればと考えています。
- ・ 近年、各地で大規模な台風や集中豪雨、長期の大雨など日本各地で頻繁に風水害が起こる時代となり、北区においても“よそ事”ではなくなってきました。実は、北区は北・南・東の三方が川に囲まれ、風水害の被害を受けやすい状況にあります。
- ・ 北稜中学校から歩いて1分ほどの大川のほとりに『水防碑』と書かれた石碑がありますが、この碑の裏側には「北区は、これまで台風に伴う高潮により、幾多の水害に見舞われてきました。北区に住む皆さんが、防災の意識を持ち続けられることを願ってこの碑を建立しました。」という内容のことが書かれています。また、43年前に建てられた石碑の表には「災害は忘れたころにやってくる」と刻まれており、先人の教えを今後も大切に守っていく必要があると感じています。
- ・ 最後に、今回の880万人訓練のポスターには「助かる人になろう。そして助けられる人になろう。」というメッセージが書かれています。自分自身のいのちを、そして他者のいのちを守ろうという願いが込められています。先生のお話は以上です。